



振袖でダブルダッチに挑戦する新成人

新成人は751人 晴れ晴れ成人式

狛江市の成人式が1月13日 日回エコルマホールで催された。好天に恵まれ、晴れ着で参加した新成人たちは晴れ晴れとした表情でおとなとしての決意を新たにしていた。

同市の新成人は昨年より68人少ない751人で、式典には現在市外に住む参加希望者を含め、昨年より110人少ない364人が参列した。

公募した新成人14人が実行委員（田中駿吾実行委員長）として昨年9月から企画立案などの準備を進め、司会など式典の運営も担当した。

第1部では、松原俊雄市長が「成人の日を迎えられた皆さんに心からお祝い申し上げます。私は『日本一やさしいまち、狛江』を目指しています。目を合わせ

商店街

狛江ショッピングセンター商店会が14日からワンコイン酒場まつり

狛江ショッピングセンター商店会が「ワンコイン酒場まつり」を14日 日回エコルマホールから24日 日回まで開催する。

「狛江市商店街チャレンジ戦略支援事業費補助金事

まち

て挨拶することで交流や防犯につながることも

もあります。ぜひ狛江市から世界へやさしさを発信できるように、小さなことから心がけていきましょう。ここの大きな節目の年に記念式典や周年記念行事が開催されます。皆さんもさまざまなイベントに積極的に参加して盛り上げていただき、市政に関心を持ってください」と呼びかけた。

これに対し新成人代表として田中実行委員長と羽深円菜さんが「これから先の人生には更なる試練や喜びが待っていると思いますが、『実るほど頭を垂れる稲穂かな』という言葉の稲穂のように謙虚な姿勢を忘れず、より優れた自分へと成長していきます」と誓いの言葉を述べた。

第2部では、中学生時代の思い出の写真などの上映、抽選会、狛江第二中学校ダブルダッチ部の演技などが

業」として実施するもので、ことしで5回目。同商店会に加盟するスナック、飲食店など16店がつまみとドリンクのワンコインメニューを500円（税込）で提供するほか、カラオケ券と引き換えられるスタンプラリーも同時に実施する。また、期間中に同商店会の全加盟店でボックスステイッシュをプレゼントする。

問い合わせ ☎3489-0432 東京支店。

行われた。田中実行委員長は「参加者に楽しんでもらうことを第一に企画し準備を進めてきたので、多くの人に喜んでもらえて良かった」と話していた。

伝統の舞を披露 能楽教室が発表会

金春流能楽師中村昌弘後援会（中川清致代表）が文化庁伝統文化親子教室事業として市内の小学生らを対象に開いている「狛江能楽教室」の発表会が12月22日 日回西河原公民館で開かれた。

舞台上では教室に通う子ども11人に加え、能を習っている大学生やおとなも出演、笛や鼓などの演奏、連吟、仕舞など日頃の練習の成果を披露した。また、中村さんら能楽師による楽器や演奏のミニ講座、舞囃子「籠」も上演された。



練習した舞を披露する子どもたち

狛江三中が银杏募金 千葉県へ155,240円

狛江第三中学校（亀澤信一校長、生徒259人）が学

雲仙普賢岳の噴火をきっかけに被災地救援のため平成3年から毎年行っている。ことしから組織の名称を「地域貢献委員会」に変更、26人の委員を中心に全校生徒で10月初めから校内でイチヨウの実を収穫、皮むきや水洗い、乾燥、袋詰めなどの作業に取り組んだ。银杏は狛江市民まつりの会場で生徒が募金活動を行い、お返しとして渡している。集まった募金は全校生徒のアンケートを基に、県へ贈ることになった。

12月24日 日回には地域貢献委員会後期委員長で2年生の石原柁さん、前期委員長で3年生の吉村凧紗さんら生徒と亀澤校長など7人が市役所を訪れ、松原俊雄市長に募金を手渡した。

石原さんらは「ことしは银杏が540袋とすごく少なく、市民まつりの募金活動

は2時間ほどで終わってしまいました。しかし、集まった募金は予想以上で市民の善意を感じました。银杏作りは大変ですが、被災者はもっと大変だと思いながらがんばりました」と話していた。

同校の银杏募金は、昨年



松原市長（左）に募金を渡す三中の生徒たち

この募金は、

老舗めぐり

◆ 84 ◆

株式会社五十嵐商店（中和泉1-3-16）は、市内で営業しているなかで最も古いガラス店のひとつ。新宿区上落合にある本店と、狛江の支店は会社は同じだが、それぞれ独立して業務を行っている。

創業者の五十嵐軍さん（大正2年～平成13年）は新宿区の早稲田大学近くで生まれ、若い頃にガラス問屋に勤めた。昭和10年代に独立、豊島区池袋の立教大学近くで食器の販売店を開いた。結婚して長男の陽夫さん（79）、次男の直文さん（76）が生まれたが、軍さんは第二次世界大戦末期に徴兵されて海軍横須賀基地へ赴任、妻子は空襲を避けて埼玉県へ疎開した。自宅は20年の東京大空襲で焼失したため、



五十嵐直文さん

終戦後は新宿区上落合へ転居し、ガラス店を始めた。開店当時、ガラスは配給

議場に響くトロンボーン 3回目の議場コンサート

狛江市議会の議場でトロンボーンカルテットのコンサートが12月20日 日回に催され、訪れた市民は議場を流れる柔らかな音のハーモニーに耳を傾けていた。

一般財団法人狛江市文化振興事業団が主催、音楽の

街ー狛江 エコルマ企画委員会が企画したもので、昨年11月以来2回目。また、昨年11月に市議会主催で狛江高等学校管楽部が演奏、議場でのコンサートは通算3回目となる。

白井友理恵さん、西須友香さん、浅沼俊介さん、永山千尋さんによるトロンボーンカルテット「白須俊



議席でトロンボーンの演奏に聴き入る市民たち

建築知識生かしサッシの窓工事手がける

五十嵐商店

制で入手しづらかったが、しばらくすると順調に入荷するようになった。戦後の復興とともに住宅建設が急ピッチで進み、小学生の陽夫さんと直文さんも仕事を手伝った。当時の窓枠は木製が多かったが、30年代半ばにアメリカのメーカーと技術提携した日本の大手メーカーがアルミサッシを日本で製造販売するようになった。軍さんの店はこのメーカーの特約店となり、いち早くアルミサッシの技術を採り入れた。高度経済成長期に起きた住宅建設ブームでは、多くの職人が働き、忙しい時は陽夫さんと直文さんも一緒に働いた。

狛江で業務を行っている直文さんは大学を卒業後、家業を手伝う道を選ぶとともに、将来に備えて夜は早大の産業技術専修コースに2年間通って家づくり全般を基礎から学び、この時の知識がいまも仕事に生きている。実家は兄が継ぐため、直文さんは支店形式で独立することになり、45年に現在の場所に土地を購入して2階建ての自宅兼店舗を建築し46年に開業したが、

昭和46年に狛江で開業／住宅建築ラッシュで多忙極める

その頃市内にはガラス店が3軒あったという。同年に栃木県小山市出身の八重子

親子で農業体験 JAマイズが募集

JAマイズが農業体験「親子でアグリ」の参加者を募集している。

都市農業への理解や食農教育を目的に催すもので、猪方3丁目の畑でジャガイ

モと枝豆を栽培して収穫する。日程は3月21日 日回 施肥・畝づくり・ジャガイモ植え付け、4月25日 日回 除草作業、枝豆種まき、7月4日 日回 収穫・片付けの3回（天候などにより変更あり）で初回の集合は午前9時 JAマイズ狛江支店。対象は狛江市在住の幼児・児童とその保護者で、定員10組（応募多数の場合は抽選）、参加費は1人110円（傷害保険代）。

申し込みは2月27日 日回までに電話（☎3488-3435）またはファクス（FAX3488-2830）でJAマイズ狛江支店経済指導部門へ。

最近窓が多様化してガラスの種類も増え、少人数では扱えない重いガラスもあるため、一緒に仕事をする職人が欠かせない。ただ、業界全体では店主の高齢化につれて廃業する店舗が目立つという。直文さんも、2人の息子は会社員で家業を継がないため、現在は自分の体力に合わせた仕事に絞っている。狛江市の指定業者に登録し、学校などの公共施設の工事も手がけており、生涯現役をモットーにこの先も働き続けるという。直文さんは「工期を守り、無理をしないこと、良い職人に恵まれたことが長く続けられた秘けつ」と話している。

五十嵐商店 ☎3489-5433 営業時間＝原則午前9時～午後5時、日曜休み